



県会議員
藤本百男
県政報告

まほろばWith

〈発行〉

藤本百男事務所

令和5年3月2日 第25号

- ブログ：ふるさと加東の歴史再発見
- ブログ：百聞百見

〒673-1431 加東市社1491-1 ☎(0795) 43-8270 FAX (0795) 20-6675 <http://www.hyakuo.net/>

議長として激動の一年を回顧

ポスト・コロナ時代 兵庫の躍動誓う

令和4年6月9日、第358回定例県議会の最終日、私は、第124代議長として、一年間にわたって務めた議長職を辞任しました。在任期間の令和3年6月からの1年間は、世界と日本、そして兵庫県にとって、まさに波乱にみちた激動の1年であったといえます。

議長就任直後の令和3年7月には、知事選挙が行われ、20年ぶりに新しい知事が誕生し、8月1日に齋藤県政がスタートしました。県議会議長として、5期20年にわたって知事を務めた井戸敏三氏を見送り、齋藤元彦知事を迎えるという兵庫県にとって20年間なかった劇的場面に立ち会うことになりました。

また、全国都道府県議長会の副会長に就任し、12月21日には、総理大臣官邸で行われた「国と地方の協議」に地方6団体代表として出席し、岸田内閣総理大臣や末松文部科学大臣はじめ、各大臣に意見を述べる機会も得ました。

令和4年10月に兵庫県明石市で開催された第41回全国豊かな海づくり大会の1年前、

40回大会がコロナのために一年遅れで宮城県で開催され、議長として出席し、兵庫県での開催に備えることができました。

議長在任中は、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、県議会の管内外調査にも大きな制約が出ました。そうした中、感染状況や医療体制の逼迫、経済の疲弊状況などに応じて、各党派代表者によるコロナ対策調整会議を開催し、議会としての対応について協議を重ねました。

令和4年2月24日にロシアによるウクライナ侵略が起こり、県議会では、3月1日に「ロシアによるウクライナ侵攻を非難する決議」を全会一致で採択しました。次いで3月4日には、議長として、在大阪ロシア連邦総領事館を訪れ、総領事に対して非難決議文と抗議文を手渡し、540万県民の総意を伝えました。4月8日には、駐日ウクライナ大使の兵庫県訪問を受け、ウクライナ支援と交流について懇談。6月8日には、全議員対象の県議会政調懇話会でウクライナ人の国際政治学者を招き、侵略の実態を聞くなどの取り組みも行ってきました。

令和4年は沖縄復帰50周年に

あたり、5月15日には東京で行われた記念式典に出席しました。また、令和3年の10月27日には、沖縄県の摩文仁の丘の兵庫県戦没者3037柱を慰霊する「のじぎくの塔」での慰霊祭に参列し、「島守の塔」で兵庫県出身の島田叡沖縄県知事はじめ、県職員の御魂に献花し追悼しました。



県議員 藤本百男

県議会初といえば、自民党が自民党議員団と自民兵庫の2党派となり、過半数を制する党派がなくなったことも一つです。過半数党派のない議会運営は各党派の主張がより明確になり、協議や調整が進むことも多く、議会の活性化につながる一面も生まれました。

特に2月議会における行財政運営に関する条例の改正案が撤回されたことは、契約に関する理由以外での条例案の撤回は県議会初となりました。また、知事のコロナ感染による会期延長も初めてで、予算の可決はギリギリの3月末になりました。

今期4年目は、議会運営委員長に選任され、議長職に引き続き、議会運営の要職を務めることになりました。

齋藤県政がスタートして2回目の予算編成となります。ポスト・コロナの兵庫の姿を「躍動する兵庫」とし、その実現を掲げて、県政改革の取り組みを進める齋藤知事と、議運委員長として、また、加東市選出議員として、ふるさと兵庫と加東の元気と明るい未来のために汗を流し、知恵をしぼって、「まほろばwith」の実現に邁進してまいる覚悟です。

藤本百男県政報告会 河田氏が災害文化のまちづくり提唱

昨年5月、やしろ国際学習塾L.O.C.ホールで「議長就任祝賀会に代わる県政報告会・特別講演会」を開催し、知事や末松文科相ら来賓を含む約300人に来場いただきました。第1部では私が県政報告し、議長としてコロナとの闘い、新知事誕生、県議会のロシア非難決議などを挙げて1年間の取り組みを説明。特別講演会では人と防災未来センター長の河田恵昭先生が講演。「首都直下地震も南海トラフ巨大地震も必ず起きる。個人や組織で備えを」と求め、「憲法に緊急事態条項をつくる」ことの重要性を強調しました。



加東市内コーラスグループ「まどかコーラス」の皆さんによる美しい歌声も披露されました

加東市の未来へ各種提言

9月定例県議会 一般質問で県当局の姿勢質す

昨年の9月定例県議会で一般質問に立ち、慰霊施設の維持管理への支援を求め、経口中絶薬への警鐘を鳴らしたほか、加東市を中心とした北播磨地域の振興をめざして歴史と文化を生かした活性化、大阪・関西万博を見据えた観光客の誘致策、北播磨と神戸を結ぶ高速道路などを訴えて県当局の前向きな答弁を引き出しました。以下に要約して紹介します。

忠魂碑など慰霊施設の維持管理について



忠魂碑で清掃活動

藤本 8月15日の朝には加東市社の明治館の広場にある忠魂碑を訪れ、英霊の御霊に祈りを捧げた。忠魂碑前では、平成27年に遺族会によって営まれた終戦70周年慰霊祭を最後に、慰霊祭等の行事は行われていない。理由は、会員の高齢化、減少などにより、慰霊碑の維持管理が困難になったためと聞いた。

忠魂碑などの慰霊施設は、戦争の歴史を身近な郷土出身兵の戦没者への慰霊という行為を通して知ることのできる戦争遺産である。戦争の時代の歴史を風化させないためにも大震災や豪雨災害などの被害に遭われ亡くなられた人々を慰霊し、記憶を風化させないのと同様に、県が支援を積極的に行うべきだ。

福祉部長 平成31年4月の国調査によると、県内の戦没者慰霊施設は485基あり、そのうち管理状況が概ね良好であったものは375基であるが、老朽化や管理状況が不明なものもある。

県は今年度、現状や課題の把握に努め、国の補助制度の対象拡充を働きかける。

藤本 問題をいつまでも先送りにできない。官か民かなど、戦後の枠組みをいつまでもこだわっている場合ではない。慰霊施設をいかに次の世代に引き継いでいくのかを県として責任を持って取り組んでほしい。

お腹に宿った小さな命を守る取り組みを

藤本 占領中の昭和23年に人工妊娠中絶を認める優生保護法が成立した。これは日本の国力を長期的展望に立って弱めたいGHQの政策でもあったが、日本政府は産児制限政策を受け入れ、その結果、人工妊娠中絶の届出数は累計で約3900万人に及び、戦後70数年間にこの命が中絶されずに生まれていたら、今日ほど極端な少子化とはなっていなかったであろう。

そのような中、外国の製薬会社が経口中絶薬の製造販売の承認を厚労省に申請している。経口中絶薬が承認されることは、同じようにお腹の中の小さな命を奪ってしまうことにほかならず、安全に簡単に中絶を行うことができるとの考えが誤って浸透することになりかねず、人工妊娠中絶数はさらに増加することが強く懸念される。

兵庫県は妊娠期から出産、子育てまで切れ目のない様々な支援を行っているが、今こそ、お腹に宿った小さな命を大切にすることを鮮明に表明し、県民への啓蒙を行うとともに、妊娠から出産、子育てへの手厚い施策を講じていくことが兵庫県のありべき姿ではないか。

保健医療部長 妊娠、出産には妊産婦の生活背景を理解し、妊娠、出産の気持ちに寄り添うことが必要であり、支援を充実させることが宿った命を大切にすることにつながる。

経口中絶薬は詳細が明らかになっていないが、昨年12月に厚生労働省に承認の申請が行われたことは承知している。

今後とも誰も取り残される

ことなく、安心して妊娠、出産、子育てができるよう、支援をさらに進める。

藤本 お腹の中の命はものと言えない。私たちは「自分の命は自分で守る」ことができて、お腹の中の小さな命はどうやって自分の命を守れるのか。授かった命として、しっかりと大事にしていくことが大切だ。

経口中絶薬の審査をしている国に、そういう命を大事にする兵庫県であるという主張をしっかりと発信してほしい。

北播磨が誇る山田錦を国の文化財に



山田錦

藤本 北播磨の地域資源である山田錦は、昭和11年に現加東市沢部の県酒米試験地の初代研究主任であった藤川禎次ら県職員の努力で誕生して以来、今日なお、酒米の王様としての揺るぎない地位を誇っている。

兵庫県産山田錦の誕生までの苦勞、産地の特徴、伝承されてきた生産技術、産地と蔵元との特別な結び付きの仕組みなど、将来にわたって保存し、伝えていくための取り組みを、文化庁の無形民俗文化財への登録や農業分野における歴史的遺産としての観点などから取り組んではどうか。

農林水産部長 食文化を含む生活文化が無形民俗文化財の対象となったが、山田錦の登録には食文化の文化財指定に必要な



学術的判断の基準が未整備であること、国に登録されている伝統的な酒づくりとの違いを明らかにすることなどの課題がある。

このため「日本農業遺産」の認定を受けることも視野に入れ、北播磨の市町や生産者団体を中心に連携し、学術的価値の集積を進め、シビックプライドの醸成とブランド力の強化で山田錦の価値を一層高めていきたい。

東条川疏水・山田錦の里などをパビリオンに

藤本 大阪・関西万博の来場者を兵庫県に誘おうと各地域の活動現場をパビリオンに見立て、体験してもらう企画が募集されている。

酒米の王様山田錦の里の風景と、東条川疏水の水の路と流域の豊かな歴史文化はSDGs、持続可能性の社会実現を目指した活動そのものである。この地域資源を活用した「ひょうごフィールドパビリオン」を進めるべきではないか。

知事 北播磨地域はまさにフィールドパビリオンとして高いポテンシャルを有している。多くの様々なコンテンツを掘り起こし、それぞれを結び付けて面的な展開を図るなど、魅力的な地域づくりと発信をやっていきたい。



東条川疏水のボート探検

神戸と北播磨を結ぶ 高速道路の整備を

藤本 北播磨地域は、兵庫県のほぼ中央部に位置し、東西に貫く2本の高速道路の中国道と山陽道、南北に貫通する国道175号、神戸淡路鳴門自動車道により、県社総合庁舎から淡路も含め、ほぼ1時間余りで県下各地に赴くことができる。

しかし足りない道路が二つある。それは県都神戸市と北播磨の中心を直結する高速道路である。もう一つは、京都府亀岡市から播磨の中心姫路市を結ぶ高速道路である。

東西・南北方向の8連携軸に斜めの線を2本引き、基幹道路10連携軸とすることにより、兵庫県内陸部の発展と近畿地方の大環状線がつながり、兵庫県と近畿圏域の飛躍的発展が展望できる。

北播磨の加東市と神戸市を結ぶ県道神戸加東線及び国道428号は、神戸加東線の三木市桃坂、そして加東市山国は狭隘部分があり、その解消が必要になっている。国道428号の神戸市箕谷から続く峡谷のがけ沿いの区間では、バスや大型トラックのすれ違いが容易ではなく、互いに進路を譲り合うために、毎日のように渋滞が発生し、また大雨時の通行止めなど緊急時の交通の障害にもなっている。

神戸加東線では桃坂バイパス

が本年11月には着工予定で、山国地区では、現道拡幅工事が進められており、両区間の工事が完成すれば、神戸加東線の課題となっている狭隘2カ所の問題は解決される。

残る国道428号の箕谷から狭隘区間の渋滞解消について、令和3年12月の兵庫県・神戸市調整会議で、久元神戸市長が新神戸トンネルの南進部の具体化とともに、箕谷から日の峰4丁目の区間をトンネルにするとの表明があった。新神戸トンネル南進部の実現は、ポートアイランド、神戸港、神戸空港と北播磨を直結することにつながり、さらに国道428号のトンネル整備により、箕谷から狭隘部の問題解決が併せて実現される。

こうした神戸加東線及び国道428号の課題解決の見通しとともに、さらに将来の道路構想として神戸と北播磨の中心部を直結する高速道路の建設とその意義について認識をうかがう。

土木部長 県道神戸加東線と国道428号は、加東市と神戸市中心部をつなぎ、北播磨地域にとって社会経済活動の要となる路線。このため、道幅の狭い3カ所におきまして、道路管理者の県と神戸市が分担して整備を進めている。

県で整備中の山国工区については、昨年度310メートル区間の道路拡幅工事と山国南橋の架け替えを完了した。引き続き整備を進め早期の完成をめざす。

桃坂工区は昨年度、用地買収を全て完了。本年11月から工事に着工し、令和7年度の完成をめざす。

国道428号は、神戸市がトンネル400mを含むバイパス整備に令和2年度に着手し、現在用地買収を進めている。

以上3カ所の整備をもち、ルート上の狭隘区間は全て解消できるということになり、神戸市とともに早期整備に努める。

神戸と北播磨を直結する高速道路は海、空の玄関となる神戸港、神戸空港へのアクセス強化が期待できると考える。「ひょうご基幹道路ネットワーク整備基本計画」で、早期完成をめざす整備路線に続く「構想路線」に位置付けている。整備路線が大阪湾岸道路西神部、播磨臨海地域道路など未完成の路線が多く残っており、本路線を含む「構想路線」は社会経済情勢の変化に応じて長期的な視点で検討していく。

主権意識を高める 教育の推進めざせ

藤本 ロシアによるウクライナへの侵略で日本は多くの教訓を得たと思うが、ロシア軍へのウクライナ国民の粘り強い抵抗もその一つだ。ウクライナ国民の強い主権意識、領土意識をまざまざと見せられた思いだ。

「主権意識を高める教育」について、特に我が国の領土に関

する教育、拉致被害者問題に対する教育、これらに関係する近現代史教育について、児童生徒が日本国民として主体的に考え、判断し、それらの問題について当事者意識を持って学習する必要が高まっている。

教育長 主権者教育は、子供たちに国家社会の形成に向け必要な資質、能力を育成していくことを目指すもの。まず過去の経緯を学ぶことが重要だ。領土に関する教育では、高校の歴史総合の教科書や県作成の副読本『世界と日本』とを活用し、国際法上の理解などを学習している。日本人拉致問題については、国際社会における主権や基本的人権の侵害という視点を踏まえ学習するとともに、各種教材の活用も図っている。

次に、ふるさとや伝統を愛する心を育む教育が重要。中学校では多くの命を守った樋口季一郎や島田勲など、兵庫ゆかりの人物を掲載した冊子『ふるさと兵庫魅力発見!』の活用、高校でのふるさと貢献活性化事業などを展開している。さらに、教員自身の指導力向上に向けた実践研修会、新聞を活用した実践指定校ではウクライナ侵攻の関連記事から世界情勢や平和を考える学習も行っている。

今後とも教員の研修とともにICTを活用した探求活動の展開やマスコミ、企業と連携した学習を推進して、主権意識を高める教育を推進していく。

感染症と自然災害に強い社会を ニューレジリエンスフォーラム兵庫大会



「巨大地震は必ず起こる」「国難災害への危機感、対応が絶対必要」との言葉をかみしめながら、ニューレジリエンスの取り組みを発信していきます。

感染症と自然災害に強い社会づくりを

ニューレジリエンスフォーラム兵庫大会

昨年12月、神戸市内で「ニューレジリエンスフォーラム兵庫大会」が開かれました。約100人が参加し、主催者を代表して、私が挨拶し、続いて人と防災未来センター長の河田恵昭共同代表、松本尚衆議院議員（ニューレジリエンスフォーラム企画委員長）からフォーラム設立の趣旨、提言内容について説明が行われました。

ニューレジリエンス（危機に処する社会の回復）フォーラムとは、感染症と自然災害に強い社会をつくることを目的に、令和3年6月に設立。医療関係をはじめ各分野の団体や個人が賛同し、すでに一次、二次の提言を政府に提出しています。

本県では河田センター長が呼びかけ人となり、私も趣旨に賛同して同僚議員や各種団体に声をかけ、大会の開催に至りました。県は阪神・淡路大震災を経験し防災

の意識が高く、今後も賛同者の輪を広げ、提言、発信を行っていく方針です。

ありがとう福田橋～撤去工事中

国道372号河高バイパスのフルランプ化で

国道372号野村河高バイパスの河高ランプのフルランプ化が完成し、令和4年3月末から、姫路・加西方面の西向きランプに加えて、社市街地・篠山方面東向きランプが建設され、東西両方向の通行ができるようになっていきます。また、加古川線の跨線橋西側の河高交差点では、右折レーンの延長が行われました。



令和4年10月末から、福田橋の撤去工事が行われています。現在の福田橋は、明治15年（1882）に架けられた初代福田橋、大正3年（1914）の2代目に次いで、3代目にあたり、昭和30年（1955）に架けられたものです。

平成8年（1996）に野村河高バイパス事業が採択され、福田橋は河川構造令の基準に合わないことから撤去されることになりました。しかし、地元から存続、架け替え等の要望が出され、検討されましたが、架け替えには新しい基準に合わ

せ路面を高く上げなければならず、西側交差点辺りで住宅の移転等の影響が大きく、平成20年には、架け替えを断念し、補修・補強を行い存続していくことになりました。

しかし、平成25年の台風11号で下流の粟田橋（小野市）が被災したことをきっかけとした橋梁の点検が行われました。その結果、福田橋は、急速に老朽化が進んでおり、補修・補強を行っても基準の耐荷力を確保できないことが判明し、車道撤去（平成6年設置の歩道橋は存続）の方針が示され、

地元説明会が行われました。

地元からは、加東市の中心市街とJR社町駅を結び、医療、生活、通勤・通学面でも大きな役割を持つ福田橋の存続要望書が出されました。

平成26年、県議会においても藤本議員が地元要望を踏まえた対応を質問しました。これに対して、県当局は、西向きだけだったランプに加え、東向きランプを建設し、東西通行機能を備えたフルランプとする方針を示しました。また、フルランプ供用までは福田橋の撤去は行わず、大型トラックなど重量制限等の規制が行われ、372号バイパスへの交通の誘導によって安全が図られました。

建設後68年という長い間、加古川の東西を結ぶ重要な道路として踏ん張り、多くの人々を、そして荷物を渡してきた福田橋。幾度となく洪水の危険を乗り越え、耐えてきた福田橋。今、4代目となる加東大橋にその大切な役目をバトンタッチし、その歴史的な役目を終え、姿を消そうとしています。

「ありがとう福田橋、お疲れ様でした」。工事は令和4年度は河高側、令和5年度に貝原側で行われます。

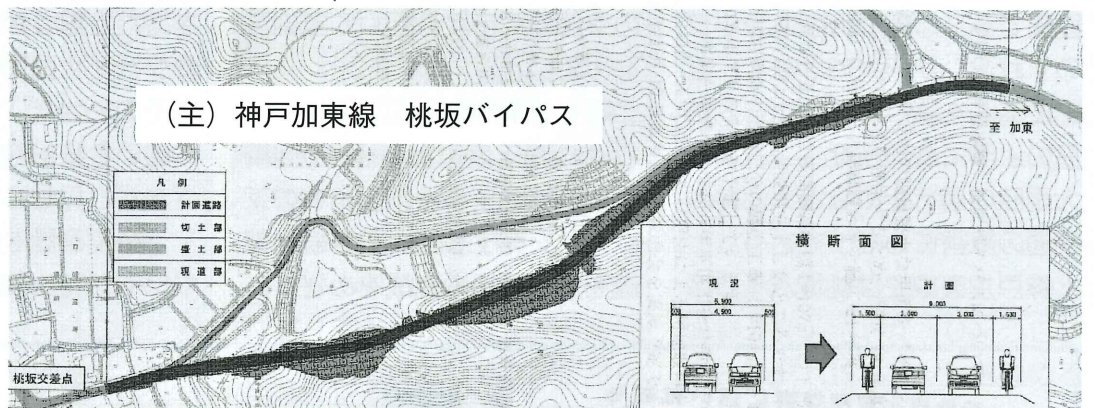
桃坂バイパス工事始まる

総延長1200m 令和7年度完成めざす

主要地方道神戸加東線の加東市と三木市の境の桃坂バイパスの工事が始まりました。令和4年11月着工予定が少し延びましたが、年明けの1月から始まり、令和7年度中の完成をめざしています。

現道には、2枚の看板が立てられ、工事開始、バイパスの完成への期待が高まっています。三木市側の桃坂交差点を少し上った所から2つの池の東側にバイパスが建設され、総延長は1200m、幅9m（内、車道は片側3メートル2車線、両側に路肩1.5m）の安全で走りやすいバイパス道路が整備されます。

これにより、神戸市と加東市及び以北の北播磨との交通がより便利になるとともに通学の高校生の安全が図られます。



子どもの登校見守り17年

私の朝の日課は、小学校や中学校に登校する子どもたちの見守りです。通学路の交差点に立ち、通学班の子どもや中学生に「おはよう！」と声をかけています。平成18年に教員を辞め、自分ができることの一つとして登校見守りに立つことを始めました。議員になってからもほぼ毎朝見守りに立ち続け、17年が経とうとしています。立派な大人になっても元気に挨拶してくれるかつての子どもたちにも元気をもらう朝の日課です。



県政資料シリーズ

第Ⅸ集を発売！

「県政シリーズ」第Ⅸ集は、令和3年5月から翌年3月までの議員活動ブログ「百聞百見」から10カ月の記録。「コロナとの闘い、新知事の誕生という歴史的な転換点」における兵庫県議会議長としての活動記録が収められています。

また、歴史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」は、県立社高校の前身である県立社高等女子学校の記憶

（昭和8年）と県立嬉野台生涯教育センターの前身である嬉野学徒錬成場や嬉野公民研修所の記憶（昭和18年～）を当時の写真や記録文から特集したものにしています。お問い合わせは藤本百男事務所まで。

